

発祥の地 大分で決意新たに

JF大分

水産おおいた

2024年
12月

172号



第43回
全国豊かな海づくり大会
～おんせん県おおいた大会～



第43回全国豊かな海づくり大会「おんせん県おおいた大会」が10日、天皇后両陛下のご臨席を仰ぎ大分県で開催された。第1回大会が昭和56年9月に南海部郡鶴見町（現在の佐伯市鶴見）の松浦漁港で開催されて以来43年ぶり、2度目の開催となった。

海洋環境の激変に伴い漁業生産量が減少し、餌飼料価格が高騰するなど水産業を取り巻く状況が厳しさを増すなか、資源管理や漁場環境保全の重要性を県内外に広く訴えるとともに、多様な水産物や「おんせん県おおいた」の魅力を全国に発信した。

「つなぐバトン 豊かな海を次世代へ」を大会テーマとし、式典行事がいにちこグランシアタ（大分市）で、海上歓迎・放流行事が別府港第4埠頭（別府市）で行われた。

式典行事では大会旗の入場につき中根組合長が声高らかに開会を宣言した。国家を斉唱したのち主催者として大会会長の額賀福志郎前衆議院議長、佐藤樹一郎大分県知事が挨拶し、足立信也大分市長が歓迎の言葉を述べた。

天皇陛下から「大分県は大会発祥の地であり、長年にわたる皆さんの努力に深く敬意を表します。豊かな海づくりの輪が大分から全国へ、未来に向け大きく広がることを願います」とお言葉をいただいた。（▽5頁に全文）



開会の言葉を述べる中根組合長

次いで、功績団体等の各賞代表が表彰され、県漁協からは栽培漁業部門の最高賞（大会会長賞）を受賞した別府湾地区4支店を代表し、豊島功前海区長が登壇した。また、大分市立大道小2年の中園瑛斗さんが最優秀作文を朗読した。

稚魚等のお手渡しでは、両陛下から県漁協の各海区の代表者に竹細工に入った種苗等が渡された。これは、13日から順次放流された。（▽5頁に詳細）

続いて、豊かな海づくりに向けた活動実践者が登壇し、海づくりメッセージを発表した。県漁協青年部長の山田和幸さん、あゆみさんご夫妻は「豊かな海と漁師の誇り」を、県水産養殖協議会青年部会副会長の山田博一さんは「未来にわたって続くブリ養殖」を、水辺に遊ぶ会理事長の足利慶聖さんは「中津干潟の

豊かな自然」を、県漁協女性部くにさき支部長の末廣奈津子さんは「魚を楽しむ食卓」を次世代につなぐバトンにしたいと力強く語った。大会の推進委員会会長を務める坂本雅信全漁連会長は「大会発祥の地大分で決意を新たに、豊穡の海を次世代に引き継いでいく」とし、大会決議として採択された。大会旗は次期開催県である一見勝之三重県知事に引き継がれ、嶋幸一県議会議長が閉会のことばを述べた。



豊かな海づくりに向けメッセージを発信

海上歓迎・放流行事



漁船団に手を振られる両陛下



10日午後、会場を別府港第4埠頭に移し、海上歓迎・放流行事が行われた。

県立別府翔青高校の吹奏楽による歓迎演奏のなか天皇皇后両陛下をお迎えし、海上歓迎行事が始まった。漁船団パレードでは、県漁協の安岐、杵築、日出、別府及び大分の各支店所属の41隻の漁船が、大漁旗を掲げて航行し招待客を歓迎した。

続いて、本県漁業を代表する船びき網、底びき網、一本釣、刺網、ごち網、もじゃこ採捕の各船が航行し、漁法が紹介された。県の漁業調査船「豊洋」と漁業取締船「はづかぜ」も雄姿を見せた。

小雨の降る中ではあったが、美しく整然と航行する漁船団に対し、両陛下も惜しみなく手を振られる御姿が印象的だった。

放流行事では、両陛下と招待客の手によりマコガレイとマダイの稚魚が放流された。まず地元別府市の春木川小学校児童の合図でマコガレイが、次いで第1回大会の開催地佐伯市の松浦小学校児童の合図でマダイが放たれ、参加者は豊漁を祈念した。



マコガレイの稚魚



マダイの稚魚



豊後潮太鼓による和太鼓演奏



小学生の合図で稚魚を放流される両陛下



別府翔成高による吹奏楽演奏

大会発祥の地鶴見から松浦小の児童がマダイ放流の合図を見



種苗生産施設御視察



緑色LED光照射飼育水槽御覧



マコガレイに給餌される両陛下

天皇皇后両陛下は、来県になった9日、国東市に7月竣工した種苗生産施設をご視察された。県農林水産部の大屋審議監の先導で緑色LED光が照射されたマコガレイの飼育水槽をご覧になり、県漁業公社の景平真明専務理事の説明を聞かれた。両陛下は疾病対策や閉鎖循環システムにもご関心を待たれ、給餌もご体験された。

つくり育てる漁業の取組については



大役を果たした ㊦堀靖昭さん ㊦松浪誠さん



つくり育てる漁業の取組及び漁法御聴取

大屋審議監がご説明し、クルマエビについては県漁業士会底びき網漁業部会の松浪誠会長が、マコガレイについては別府湾漁業青年協議会の堀靖昭会長が詳しく補足した。両陛下は温暖化の影響や青年部の活動などについてお聞きになり、若手の漁業者たちは的確にお答えを返し、「緊張したが大変に光栄。お伝えしたいことが説明できた」と安堵した。

漁業関係者との御懇談

9日の夕刻、会場を大分市内のホテルに移し、天皇皇后両陛下は、絵画・習字優秀作品御覧」と「漁業関係者との御懇談に臨まれた。

御懇談会場では、中根組合長が両陛下を先導し、5組の関係者を紹介した。大会当日の稚魚等のお受け者となる中津地区の田中浩二委員長、海づくりメッセージ発表者の県漁協青年部長の山田和幸さんと山田あゆみさんを、功績



アサリ稚貝のお受け者となる田中委員長



両陛下をご先導する中根組合長



㊦谷委員長と豊島前海区長
㊦海づくりメッセージ発表者



海づくりメッセージを発表する山田部長夫妻

団体表彰受賞者では、栽培漁業部門の大会会長賞を受賞した別府湾地区の豊島功前海区長、資源管理型漁業部門の大会会長賞を受賞した姫島地区の谷勇委員長、漁場・環境保全部門の農林水産大臣賞を受賞した津久見地区の松下光太郎委員長らを順次紹介し、両陛下はひとりひとりに対して漁業の様子などをお聞きになり、メッセージ発表者には「頑張ってください」とのお声がけもいただいた。

第43回 全国 豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～

豊かな海づくりフェスタなど



大会に合わせ、大分市、佐伯市及び中津市で関連行事が行われた。大分市では9日・10日の両日、大分駅周辺で「豊かな海づくりフェスタ」が開催され、さかなクンスペシャルトークショーや活魚のつかみ取りがあった。第1回開催の佐伯市松浦漁港では「東九州大漁祭・つるみ豊魚祭」が、中津市小祝漁港では「市民おさかな感謝デー」が10日に開催され、多くの市民で賑わった。



農水大臣、水産庁長官視察

第43回 全国 豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～



活魚水槽から取り上げたハモを視察



施設の概要説明を聴取



鰐料理(湯引き、フライ)を試食



工場内を見学

大会がすべて滞りなく終了した後、小里泰弘農林水産大臣と森健水産庁長官らの一行12名が県漁協杵築支店のハモ加工施設を視察した。

新川参事の進行のもと、奥井専門員が荷さばき施設内に設けた会場で施設の概要と稼働状況等について説明し、活魚水槽から取り上げたハモを視察した。次いで代表者が加工施設内に入り、骨切りの状況等を見学した。最後に鰐料理として湯引きとフライを試食して頂いた。

大臣と長官が揃って視察される貴重な機会が得られ、海づくり大会の素晴らしい締めくくりとなった。



天皇陛下のお言葉



第43回全国豊かな海づくり大会が、ここ大分県で開催され、皆さんと共に出席できることをうれしく思います。

本大会は43年前、ここ大分県から始まりました。第1回大会は、「そだてよう 豊かな海を ふるさとを」をテーマに、現在の佐伯市にある松浦漁港で開催され、これを契機として、これまで全国の多くの関係者により、漁業振興や自然環境の保全活動が積極的に行われてきました。

ここ大分でも、資源管理と一体となった栽培漁業や、ブリやヒラメなどを始めとした魚類や貝類の養殖業の振興のほか、ブランド化に早くから取り組み、全国でも有数の水産物の生産地となっています。こうした取組を、長年にわたり続けてこられた皆さんの努力に深く敬意を表します。

現在、大分県では、この豊かな海を次の世代に引き継いでいくため、最新の生産施設を導入し、漁場環境の整備と稚魚の育成に適した場所への集中放流を一体的に行うことで、より効果的な栽培漁業に取り組んでいると聞いています。また、養殖業では市場環境の変化に対応できる持続的な産地づくりを目指しているほか、水産物の消費拡大や、豊かな自然環境の保全活動など、県民の皆さんによる様々な取組が行われていると聞いています。

地球温暖化や海洋プラスチックごみの問題など、国際的な課題も生じている中で、漁業関係者の皆さんの御苦労も多いことと思います。

「つなぐバトン 豊かな海を 次世代へ」をテーマに、大会始まりの地で行われる今回の大会を契機として、全国各地において取り組まれてきた豊かな海づくりの活動に、皆さんの英知と努力を再び結集し、更に発展させていくことを期待します。そして、人々の海や水産業への関心と理解がより深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ大分の地から全国へそして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。

お手渡し魚等の放流



イサキの放流(13日 佐伯市鶴見)



アサリの放流(13日 中津市小祝)



天皇皇后両陛下からお手渡しをいただいた稚魚等を記念放流

式典行事において天皇皇后両陛下からお手渡しをいただいた稚魚等が、各海域で記念放流された。

13日には佐伯市鶴見の大島周辺にイサキの稚魚400尾が、中津市小祝漁港の沖合ではアサリの稚貝12500個が漁業者の手で放れた。14日には姫島村の姫島海水浴場で子どもたちがキジハタの稚魚300尾を放流した。カジメの幼芽は22日に津久見市高浜地先に移植され、保戸島地先では29日に予定していたが強風のため12月に順延された。各海域で、豊かな水産資源に育つことを祈りたい。



キジハタの放流(14日 姫島村海水浴場)



カジメの移植(22日 津久見市高浜、29日 津久見市保戸島は式典実施)



第43回 全国 豊かな海づくり大会
～おんせん県おおいた大会～

souvenir photo



大会旗入場



主催者挨拶・大会会長



主催者挨拶・大分県知事



歓迎の言葉・大分市長



表彰・功績団体等



最優秀作文の発表



稚魚等のお手渡し



稚魚等のお手渡し



大会決議・推進委員会会長



大会旗引継ぎ



閉会の言葉



天皇后両陛下御退席



ナビゲーター(KEIKO&マク・パソナ)



表彰式



御放流所



中根組合長放流



会場エントランス



お手渡し魚等



昼食会場



おもてなし



大会記念アートと受賞者



歓迎の皆さん



漁業公社にご到着



タッチプール

各水産団体の取組概要等を共有

県漁協地区漁業運営委員長と水産団体合同会議



ぎょさい60th特別表彰

25日、別府市内のホテルで令和6年度の大分県漁協地区漁業運営委員長と水産団体合同会議を開催した。

冒頭、主催者を代表して中根組合長は、全国豊かな海づくり大会への取組に感謝するとともに、この会議を踏まえ地区漁業の円滑な運営と県漁協の経営の安定に貢献して欲しいと挨拶した。

第1部は、日本漁船保険組合大分県支所の中村支所長が、支所の概況等を踏まえ統廃合や業務の合理化等の課題について説明した。

第2部は、全国共済水産業協同組合連合会大分県事務所の高橋所長代理が改めて共済事業の役割や仕組み等について説明し、推進を呼びかけた。

第3部は、全国合同漁業共済組合大分県事務所の宮本課長代理がぎょさい60年の歩みと実績について説明した。また、60周年記念大会において、県漁協が全漁連会長から特別功績者表彰を受けたことから、鳴海運営委員長から中根組合長に表彰状が手交された。

最後に第4部は、県漁協の新川参事が本年度上半期の仮決算概要を説明し、担当部課長が各事業について報告した。稼働を開始した蒲江加工センターの状況についても説明した。

ロケット打上げに関し事前協議

27日、県水産会館において令和6年度第3回事前協議を行った。本年度前期分の結果報告の後、後期分の計画及び次年度計画案について、文科省から概要が、JAXAから詳細が示され、すべて異議なく承認された。

なお、26日に行われたイプシロンSロケットの2段モーター再地上燃焼試験が失敗した件については、原因究明中との説明があった。



H3ロケット4号機

次いで、養殖業の現状などについて情報を共有した。国への要望では、S Nの負担割合改善を引き続き求めるべきとの意見があり、県や本店も同意した。浮沈式イケスの導入については、餌飼料高騰による採算の悪化、漁業調整上の問題から実施が見通せない状況であった。次回は年度末に本年度のまとめを行う。

仮決算概要、組合員資格審査委員を承認

第8回理事会

25日、運営委員長合同会議に引き続き令和6年度第8回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入5人について承認した。

第2号議案「理事との融資契約について」は、組合長が会長を務める(一社)大分県漁船リース協会への融資が利益相反取引にあたることから、融資先の漁業種類や契約の適格性等について説明し、原案を承認した。

第3号議案「不良債権の処理方針について」では、理事会決裁である総与信額4千万円超の6者に係る不良債権の処理方針について、付議された原案を承認した。なお、5年度末の1千万円超の不良債権は元年度末に対して件数で19件、金額で2億21百万円ほど減少しており、今後も信用事業譲渡を見据えJFマリンバンク大分県会議の取組を進めなければならない。

第4号議案「令和6年度・仮決算概要について」は合同会議で説明済みだが、下半期でマイナスの着地となる支店も想定され、年度末決算は楽観できないことを含めて承認した。

第5号議案「組合員資格審査委員の承認」も原案の6人を承認した

協議・報告事項では、①余裕金の運用状況報告、②令和6年度上半期・内部検査実施報告、③事業実績報告(購買・販売事業)、④蒲江地区漁業運営委員の補欠選挙の結果等について説明し、今後の日程を確認した。

取組の経過を報告、養殖の現状を確認

第4回入津地区養殖振興検討委員会

19日、佐伯市の南部振興局に県、佐伯市及び県漁協の委員が集まり、第4回委員会を開催した。振興局は漁場環境改善試験として実施しているカキ及びアサリ養殖と陸上養殖排水ヤシマット実証試験について、佐伯市は作れい事業の実施状況について、水産研究部は浮沈式イケス内のブリの遊泳状況監視結果について、それぞれ報告した。概要は以下のとおり。

(1000円/個)
◎垂下式アサリ養殖
・通常4年程度を要する殻長4cmまでの成長が1年足らずで達成できた場所もあり、実入りも良好
・1コンテナ当たり20000円の売上が得られると試算
・カゴに入れる基質は価格が高いためアコヤガイを砕いたもので代替予定

◎ヤシマット実証試験
・設置方法別、四季別の回収量、効率の稚貝を調査中
・飼育中のアマモ種子をマットに植えて造成試験を実施予定
◎作れい事業
・本年度事業は11月12日に開始、次年度で完了予定
・調査の結果溶存酸素量が多少改善し、赤潮の発生もないことから養殖業者も効果を実感

◎浮沈式イケス内の遊泳状況監視
・給餌船のエンジンが指導すると遊泳が活発化、沈降・浮上では大きな影響ない
・次年度は沈下時の給餌状況を確認予定



「岬ガザミ」を調理 故郷の漁業を学ぶ

特産の岬ガザミを使った料理教室が、香々地地区の小中学校で開催された。県漁協青年部が、8日には香々地中の生徒が、養殖試験中のガザミを調理し、給食の時間に味わった。

子どもたちは、岬ガザミを通して地域の漁業や漁具、漁法、資源管理や養殖の取組についても学び、楽しく故郷を知る機会となった。



青年部員の指導を受けガザミを締める三浦小の児童



調理したガザミを給食で味わう香々地中の生徒



④かぼすブリ
⑤かぼすヒラマサ



愛されるブランドに！

かぼすフグ、かぼすヒラメ出荷式

大分特産のかぼすを餌に加えて育てた「かぼすフグ」と「かぼすヒラメ」が本格出荷のシーズンを迎えた。県漁協と生産者は1日の早朝、大分市公設卸売市場水産卸売場で出荷式を行い、市場関係者らにブランドをPRした。



中根組合長の挨拶、県農林水産部大屋審議監の祝辞の後、生産者が出荷宣言を行った。

かぼすフグの生産者を代表し高瀬水産(有)の高瀬興治社長は「フグ特有の上品な味わいに、かぼすの爽やかな香りと確かな美味しさ、さらに生産者のプライドを込めた」、かぼすヒラメの生産者を代表しコーヨマル水産山本裕太郎さんは「白身特有のあつさりとした中に上品な味わいと、ほのかに香るかぼすの風味や間違いないうまみが備わった」とブランドをアピールした。

本年度の出荷量は、かぼすフ



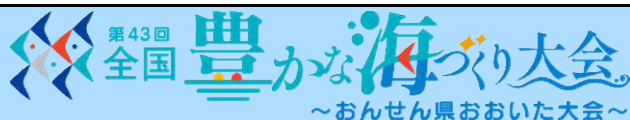
⑥かぼすフグ ⑦かぼすヒラメ

グが2800尾、2.7トン(前年実績1トン)、かぼすヒラメが9300尾、7.5トン(同6.8トン)を目指している。

かぼす養魚

養殖ブリの血合部分の変色を遅らせるため、従来の葡萄種子由来のポリフェノールに代わる素材としてジューズ搾汁後のかぼす残渣に着目。平成19年度に水産研究部が研究を開始した。約20時間の褐変抑制効果が確認され、22年度に販売が始まった。かぼすの香り成分リモネンが爽やかさを加えることが評判を呼び、新しいブランド魚として認められた。

ブリに続き、23年度にヒラメ、平成元年度にヒラマサ、4年度にフグが加わり、かぼす4兄弟として売り出している。さらにかぼすサーモンも仲間入りする予定で、生産者の努力に期待が高まる。



水 研 だ よ り

全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～に参加して

11月10日に天皇・皇后両陛下をお招きして、第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～が開催されました。当研究部も全職員が大会実施本部員として、大分市のiichikoグランシアタで行われた式典行事及び別府市の別府港第4埠頭で行われた海上歓迎・放流行事に参加しました。

今回の「水研だより」は、水産研究部・北部水産グループの研究員が担った式典行事におけるお手渡し魚管理班の仕事について触れたいと思います。お手渡し魚管理班には大きな役割が三つあり、一つ目がお手渡し魚となるイサキ、キジハタの稚魚、アサリ稚貝、カジメ幼芽の運搬、二つ目が会場特設保管場所でのお手渡し魚の管理、そして三つ目が式典プログラムのお手渡しの時間にお手渡し魚を専用容器に入れて会場まで運び、両陛下から漁業関係者へ稚魚等のお手渡ししが完了するまで補助することでした。

当研究部では、万全を期すため、事前にお手渡し容器を用いてどのくらいの時間酸素補給なしで魚が生存できるか実験を行いました。その結果、3時間は何とか生存することが確認できました。

式典では、容器に収容してからお手渡しまでの所用時間が30分と短いため、安心して大会本番を迎えることができました。

大会当日も魚に何ら問題はなく、無事お手渡しの行事を終えることができ、参加者一同安堵しているところです。



お手渡し魚保管場所



保管場所内の水槽



お手渡し予定のカジメ幼芽、アサリ稚貝、キジハタ・イサキ稚魚



容器内のイサキ稚魚



漁船無事故チャレンジ100

令和6年10月1日
～7年1月8日
の100日間で取り組み中

皆さん、海難事故防止
よろしくお願いします!

(写真は9月30日に別府支店
で行った宣誓式)

実施中です!

おおいた県産魚の日
かぼすヒラメ
大試食会

11/22(金) 10時～

なくなり次第

限定100食

**あさかなランド
わさだ店**

**かぼすヒラメ
特価販売
もやるよ！**



第4金曜日の22日、おさかなランドわさだ店で大分県産魚の日PRイベント「かぼすヒラメ試食フェア」を開催した。

生産者とともに限定100食の試食を行い、寿司、刺身、切身を特別価格で販売した。試食をしたお客様からは「臭みがなく歯ごたえがあっておいしい。甘みが強い」など高評価をいただいた。試食は午前中になくなり、販売も好調だった。



サカナをたべれば
幸福が見えてくる

ウオ
メシ

海づくり
大会記念
味力満載
特製弁当



大会関係の写真は
大分県からご提供
いただきました。



り、不覚にも目頭が熱くなりました。

お言葉にあるとおり、漁業を取り巻く多くの課題を解決しながら、豊かな海づくりのバトンを未来に引き継いでいきたいと思えます。

祝表彰

長年のご功績により功労者として表彰された皆様に心から感謝しお祝い申し上げます。

大分県功労者表彰

間越地区活性化推進協議会会長
(大分県漁協理事)



嶋原隆之氏

・米水津間越地区は古くから漁業が主産業であり、多種多様な魚種が水揚げされ、佐伯市水産業の振興に大きく寄与している。

・少子高齢化が進む中、地区に唯一あった小学校の休校を契機に、漁業の存続・発展と地区活性化について協議を重ね、平成15年に住民が全員参加する形で「間越地区活性化推進協議会」を発足し、併せて協議会内に「来だんせへ部会」など5つの部会を設置した。

・「来だんせへ部会」を中心に「間越来だんせへ市」と称した朝市を平成15年5月から、8月を除く毎月第3日曜日に開催し、漁獲物や加工品を販売、活魚のセリ体験会など飽きのこない工夫もあり、多くの来場者が訪れ、地元水産物のさらなるPRの場となっている。

・地域活性化だけでなく、朝市による安定した漁業収益確保に伴い、漁業後継者の増加等水産業振興に大きく貢献している。

漁協運動功勞者表彰

大分県漁協参事

新川哲浩 氏



・長期にわたり県漁連、漁協職員として組合の発展に努め、平成14年4月1日の大分県漁協発足においては、県一漁協実現に向け各事業面における各事務手続き・システム関係等について中心的な役割を担い、その重責を果たした。

・合併後は、経営管理課長に就き、大分県漁協の大分県組織・事業・財政改革のため組織改革の推進に努め、総務部長を経て、現在参事として、県漁協青年部、女性部のほか各種事務局長を兼任し、手腕を発揮している。

・また、九州・山口地区漁協三連会長の事務局長を担当し、政策要望等や会長会の運営面についての、調整を行った。

半世紀に一度のビックイベントが成功裏に終了した。それぞれの立場で携わった組合員や役職員の皆さん、本当にご苦勞様です。

私事で恐縮ですが、大分県に就職した年に第1回大会を担当し、今回2度目は漁協役員として関わりました。とても感慨深いものがあります。

天皇陛下が「発祥の地大分で長年栽培漁業や養殖振興、ブランド化に取り組まれ敬意を表する」と語られた時には、自身の水産人生と重なる

り、不覚にも目頭が熱くなりました。

編集後記